

# 飯山市農業振興計画の概要

## 趣旨 (P1)

飯山市の農業を取り巻く諸課題に対応した農業振興に向けて、将来のめざすべき姿(10年後)を総合かつ計画的に推進することを目的として飯山市農業振興計画を策定する。計画の期間は、平成29年度から10年間とし、農業生産額は総合戦略の目標年度である平成31年度に向けて、平成27年の72億円から80億円をめざすこととし、平成38年まで連続して80億円維持をめざします。また、新規就農者においては、平成28年度末見込の5人から毎年8人程度の確保の施策を講じ、総合戦略目標の30人確保をめざし、平成31年度からさらに7年後の平成38年度まで毎年8人を維持し、累計で86人(30人+56人)をめざします。なお、飯山市総合戦略と一体的な推進を図ることとし、毎年度の事業評価の結果を踏まえ、見直しや改善を行います。

## 飯山市農業をめぐる情勢 (P1-8)

### 飯山市農業の概要 (P2-5)

#### (1) 歴史と概要

- 上位3品目は(米、菌茸、アスパラガス)である。
- 菌茸栽培は昭和30年代以降、冬期間の経済基盤確立を目指した先駆者らにより導入され、飯山市農業の半分を占める基幹品目にまで成長してきた。
- アスパラガスは、平成2年産から農業統計実施最終年である平成18年までは生産量日本一であることを確認でき、当地域特融の寒暖差のある好条件の気候に恵まれ、味、品質共に定評あるブランド品として市場より高い評価を受けている。

#### (2) 農業就農人口と農地利用の状況 (増減率)

- 農業就農人口  
平成12年4,110人⇒平成27年1,846人(55%減少)
- 経営耕地面積  
平成12年3,173ha⇒平成27年1,799ha(43%減少)  
(平成27年) 田1,190ha、畑593ha
- 耕作放棄地面積  
平成12年354ha⇒平成27年501ha(42%増加)

### 現状と課題 (P6-8)

- 農業就農人口が大きく減少⇒深刻な高齢化
- 農業生産額(増減率)：ピーク平成3年160億円⇒平成27年72億円(55%減少)
- 米の価格の漸減、野菜の産地間競争の激化
- アスパラガスの連作障害と生産者減少
- 畜産農家が減少、みゆきポークはブランド品として評価を得ているが産地を維持するのが課題
- 菌茸の企業参入による安価推移
- 米は全国有数の良食味米地帯として評価が高く米食味コンクールで金賞を受賞
- 野菜はアスパラガス、きゅうり、ズッキーニが中心
- 花卉は市場での高い評価があり、季節感のある多品目が特徴である

## 全体の基本方針 (P9-11)

### (1) 共通目標 (P9)

『やりがい(産業としての農業)』と『いきがい(くらしとしての農業)』を支える農業づくり

### (2) 施策の基本方向 (P9-10)

#### ① 農地・生産・担い手

- 農地：農業生産基盤の維持と効率的な利用をはかるため、農地保全や流動化、集約化を推進する。
- 担い手：集落営農組織・法人等による営農・就農支援を強化。次世代を担う後継者(親元就農、定年帰農やUIターンなど)を育成・確保するため、新たな担い手の受け入れから定着までを一貫して地域でサポートするシステムの構築をめざす。
- 生産：規模を設定し、それぞれの担い手が目標を実現するために抱える課題を明確化し、部門別の基本方針を策定してその克服に向けた取り組みを推進する。  
【大規模層：所得400万円以上】  
【中規模層：所得200～400万円】  
【小規模層：所得200万円未満】

#### ② マーケティング(販売)

- 実需者ニーズの把握や、6次産業化による加工品開発を含めた高付加価値化、直売所の利活用による地産地消の拡大など、販売力強化をめざす。
- メディアインターネットの活用、「飯山ファン」の獲得、グリーンツーリズム・観光交流による地域活性化、移住・定住(UIターン)など、積極的な情報発信を行う。
- 食農教育や食文化の伝承を通じた情報発信。

#### ③ 計画目標

	新規就農者数 (累計)(人)	農業生産額 (千円)
現況	5 (平成28年)	7,205,466 (平成27年)
平成31年 (2019)	30	8,000,000
平成38年 (2026)	86	8,000,000

### (3) 施策の概念図(別紙)(P11)

## 部門別の基本方針 (P12-17)

### 水稻 (P12)

- ①こだわり米を維持拡大するため、水田の利用集積、経営規模適正化推進
- ②米価下落に対応した低コスト生産技術導入と、販売力強化
- ③省力的な管理技術の導入と環境保全や景観美化推進

### 畑作 (P13)

- ①アスパラ王国復活(産出額10億円)をめざし、作付拡大・疫病対策
- ②重点振興品目を選定し、遊休農地で作付拡大
- ③作業省力化による作付面積拡大と所得増大
- ④キノコ・水稻と複合化による所得拡大・経営安定化
- ⑤多品目産地としてのブランド力を強化
- ⑥畑地の利用集積化、圃場の大区画化、耕作放棄地対策による農地の有効活用
- ⑦いきがい農業を支えるため、農業ヘルパー組織や直売所の利活用を推進

### 畜産 (P14)

- ①担い手の確保の取り組みを推進
- ②生産維持拡大のため、安定的な生産体制の整備
- ③ブランド力強化・加工品開発による高付加価値化推進

### 菌茸 (P15)

- ①生産量減少に対応するため、既存施設の活用、施設設備の更新
- ②価格下落に対応するため、コスト低減、販売力強化
- ③夏場の価格低下に対応するため複合経営、加工品開発

### 担い手 (P16)

- ①次世代を担う後継者(親元就農、定年帰農、UIターン)を幅広く確保
- ②新規就農者に対する技術・資金等を支援
- ③農作業支援組織を通じた人材と労働力の有効活用を推進
- ④地域おこし協力隊などによる、労働力の有効活用
- ⑤農業への関心を高めるため都市農村交流を推進
- ⑥新規就農者に対する農地利用の斡旋

### マーケティング (P17)

- ①飯山産農畜産物のブランドづくり、そばなど6次産業化・加工品開発も含めた振興による高付加価値化と販売力強化
- ②直売所機能を強化して飯山ブランドの魅力発信
- ③飯山の魅力を大都市の消費者へ発信、UIターン者を含めた新規就農者の増加をめざす
- ④地産地消、食農教育、食文化の伝承の推進

【 施策の概念図 】

